

令和元年度 第4回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会
(概 要)

1 検討内容

国有林材供給調整対策について

2 検討結果

価格解析結果では一部の販売ブロックにおいて木材価格が「定常範囲を逸脱する動き」を確認したものの、各委員からの意見等を総合的に勘案した結果、現時点において国有林材の供給調整を実施する必要性はないものと判断する。ただし、今後も丸太価格及び需要動向に注視し、必要に応じて柔軟な対応が求められる可能性もある。

3 委員意見等

・合板向けカラマツは、長野の台風被害の影響で供給が止まる事を想定していたが、思ったより復旧が早かった。今後、原木価格は下げられると予想している。(A材業界も同様)

・輸出が止まっていることもあり、九州からの影響は何れ受けることになると思うが、今後、経済状況が悪化した場合、民有林の切り控えが始まる事も想定すると、全てマイナス要因となる雰囲気を作ってはいけない。

・岐阜県内は降雪も少なく、山元の作業は冬場も順調ではあるが、今年度については、昨年春先から作業が進み過ぎている傾向もあり、この冬期については補助金の駆け込み出材も昨年に比べ早めに収束しつつある。(4～5月中旬の出材量減少が懸念される)

・長野県の出材量は例年より少し多い。スギは全国的に出材が多く、値下がり傾向。また、建築材・合板向け原木は過剰気味。製材向けにスギを納材しているが4月以降は止まる見通し。カラマツは、一時不足状態であったが、不足感については落ち着き始めている。しかし、スギと違い合板工場から納材を求められている。

・スギの価格・販路については、今後厳しくなると予想しており出来るだけスギの伐採を後回しにし、カラマツの伐採を優先して頂くよう要請している。